

出頭義務違背ニ對シテハ次ノ如キ制裁的規定アリ。

(イ) 召喚ニ應セサル證人ニ對シテハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得第二百九十四條第(六)號參照

(ロ) 證人正當ノ事由ナクシテ指定ノ場所ニ同行ヲ肯セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得第二百十四條

(ハ) 召喚ヲ受ケタル證人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ過料ニ處セラレ又ハ賠償ヲ命セラルル場合アリ。司法警察官ハ自ラ之等ノ裁判ヲ爲スコトヲ得サルコト勿論ナルヲ以テ證人ノ現在地ヲ管轄スル區裁判所ニ對シ證人ヲ過料ニ處シ又ハ之ニ賠償ヲ命スヘキコトヲ請求スルコトヲ得裁判所請求理由アリトスルトキハ證人ヲ五十圓以下ノ過料ニ處シ且不出頭ニ因リ生シタル費用ノ賠償ヲ命スルモノトス第二百十四條、第九十條、第九十條、第九十條 求ヲ爲スニハ其ノ裁判所ノ檢事ヲ經由シテ請求書ヲ差出スヘキモノトス規範第(七)號參照

(二)

宣誓ノ義務 證人ハ供述ノ正確ヲ保證スル爲良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事

宣誓ノ義務

ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ宣誓スルノ義務ヲ負フ第九十條但シ場合ニ依リ此ノ義務ヲ免除セラルルコトアリ第二百一十條 檢事司法警察官カ證人ヲ訊問スルニ當リテハ總テ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得サルモノト爲セリ第二百十五條 宣誓ヲ爲サシメサルカ故ニ僞證ノ罪ヲ構成スルコトナシト雖僞ノ事實ヲ陳述スルコトヲ認容スルノ趣旨ニ非サルコト言フ俟タス。

(三)

供述ノ義務 訊問者ノ訊問ニ對シ供述ヲ爲スノ義務ヲ謂フ。證人正當ノ事由ナクシテ供述義務ニ違背シタルトキハ百圓以下ノ過料ニ處セラル。司法警察官ハ證人ノ現在地ヲ管轄スル區裁判所ニ對シ過料ニ處スルノ處分ヲ請求シ得ヘキコトハ出頭義務違背ノ場合ニ同シ第二百十四條、第九十條、第九十條 供述ノ義務ハ次ノ場合ニ於テ免除セラル。

(イ) 公務上ノ祕密事項ニ關スル場合第一百五條

司法警察官吏證人トシテ捜査ニ關スル事項ニ付訊問ヲ受クル場合ニ於テモ供述義務ヲ免除セラルルニハ此ノ規定ニ依ラサルヘカラス舊法第九十條、第九十條參照

(ロ) 業務上ノ祕密事項ニ關スル場合第一百七條

供述ノ義務

(ハ) 被疑者トノ間ニ特定ノ親族上ノ身分關係アル場合第一百八十六條
 (ニ) 自己又ハ自己ト特定ノ親族上ノ身分關係アル者カ訴追ヲ受クル虞アル場合及當該事件ノ共犯トシテ裁判繫屬中ナル場合第一百八十八條

第四項 證人訊問ノ手續

召喚

第一 召喚

一 證人ノ召喚ハ召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘキモノトス第九十二條 召喚狀ニハ
 (イ) 證人ノ氏名住所(ロ) 被疑者ノ氏名竝被疑事件(ハ) 出頭スヘキ年月日時及場所(ニ)
 出頭セサルトキハ過料ニ處シ且勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載シ司法
 警察官之ニ記名捺印セサルヘカラス第九十條 召喚狀ノ送達ト出頭トノ
 間ニハ少クトモ二十四時間ノ猶豫ヲ存セサルヘカラス。但シ急速ヲ要スル場
 合ハ此ノ限ニ在ラス第九十四條 尙召喚ニ關シテハ令狀ノ章ヲ參照スヘシ。

第二 訊問

一 召喚ニ依リ出頭シタル證人ハ速ニ之ヲ訊問セサルヘカラス。證人ヲシテ時

訊問ノ迅
速

人物特定
ノ調査

個別訊問
及對質

一 間ヲ空費セシムヘカラサルノ趣旨ナリ。證人警察署構内ニ在ルトキハ司法警
 察官ハ召喚ヲ爲ササル場合ニ於テモ之ヲ訊問スルコトヲ得第二百十四條、第二百
 十七條、第八十五條
 二 證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及被疑者トノ間ニ刑事訴訟法第八
 十六條第一項ニ規定スルカ如キ身分關係アル者ナリヤ否ヲ取調ヘ若シ其ノ關
 係アルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告ケサルヘカラス第二百十四條、第
 二百九十五條 人違
 ナキカ否カノ取調ハ氏名、年齢、職業及住居等ヲ訊問スルコトニ依リテ行ハルル
 ヲ例トス。

三 證人ハ各別ニ之ヲ訊問スルコトヲ要ス。後ニ訊問スヘキ證人訊問ヲ爲スヘ
 キ場所ニ在ルトキハ之ニ退場ヲ命スヘシ第二百十四條、第
 二百三條 然レトモ事實發見ノ爲必
 要アルトキハ證人ト他ノ證人又ハ被疑者ト對質セシムルコトヲ妨ケス第二百
 十四條、第
 二百四條 此ノ如キ對質訊問ヲ爲スニハ其ノ時機ニ注意シ未タ各人ノ供述ヲ盡サシ
 メサル前ニ濫リニ對質ヲ爲スカ如キコトナキヲ要ス。又兩者間ノ關係ヲ顧慮
 シ一方ヲシテ他ノ威壓ニ因リ任意ノ供述ヲ爲シ得サラシメ或ハ一方ヲシテ他
 方ノ意ヲ迎ヘ之ト苟合妥協スル供述ヲ爲スカ如キコトナカラシムルニ注意セ

ナルヘカラス規範第九十九條

連絡供述

吏ノ立會

旅費日當
止宿料

作成者及
記載事項

四 證人ニハ訊問事項ニ付連絡シタル供述ヲ爲サシムルコトニ注意セサルヘカ

ラス。前後連絡ナキ訊問供述ハ其ノ調書ヲ讀ム者ヲシテ徒ニ其ノ實情ヲ得ル
コト難カラシムレハナリ。又必要アル場合ニ於テハ證人ノ供述ヲ明白ナラシ
メ又ハ其ノ眞否ヲ判斷スル爲適當ナル訊問ヲ爲スヘク證人ノ供述曖昧ナルカ
矛盾アルトキハ共ニ之ヲ放置スルカ如キコトナキヲ要ス第二百五十四條

五 證人ヲ訊問スルトキハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘシ第二百六十六條之レ被疑者

ヲ訊問スル場合第九十九條ト同様ニシテ手續ノ公正ヲ期スルニ在リ。調書ヲ作成
セシムル爲ノ立會ニ非ス。

六 證人ハ旅費、日當及止宿料ヲ請求スルコトヲ得正當ノ事由ナクシテ證言ヲ拒

ミタル者ハ此ノ限ニ在ラス第一百八十八條此ノ種費用ハ各其ノ應ニ於テ支辨スヘキモ
ノトス大正十三年四月十七日
刑事局長回答參照

第三 調書

一 證人訊問ヲ爲シタルトキハ訊問ヲ爲シタル司法警察官調書ヲ作成スヘク立

記載ノ時
期

意義

一 會ヒタル司法警察吏ニ於テ作成スヘキモノニ非ス。第五十條證人ニ對シ人違ナキ
カ否カヲ取調ヘタル事實、刑事訴訟法第百八十六條第一項ニ規定スル身分關係
ヲ有スルヤ否ヲ取調ヘタル事實、斯ル關係アル場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ
得ル旨ヲ告ケタル事實、斯ル關係アルニ拘ラス證言ヲ拒マスシテ供述ヲ爲シタ
ルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘキモノトス。其ノ他調書ニ記載スヘキ事項ハ刑事
訴訟法第五十六條及第五十八條等ノ規定スル所ナリ。(樣式第十)(五號參照)

二 證人ニ對スル訊問及證人ノ供述ハ即時ニ調書ニ記載シ以テ訊問供述ノ經過
ヲ明確ナラシムヘク訊問ヲ終了シタル後問答ヲ取捨選擇シテ記載スルカ如キ
ハ嚴ニ之ヲ避ケサルヘカラス規範第百條

第六款 鑑定

第一項 鑑定人ノ意義

一 鑑定人トハ訴訟中特別ノ學識經驗ニ基キ事實上ノ判斷ヲ爲シ之ヲ報告スル
コトヲ裁判所其ノ他ノ國家機關ニ依リテ定メラレタル第三者ヲ謂フ。證人ハ

本論 第二編 捜査 第二章 捜査ノ實行 第二節 強制捜査 第六款 鑑定

過去ニ實驗シタル事實其ノモノヲ供述スルモノナレトモ鑑定人ハ其ノ訴訟手續ニ於テ供給セラレタル事實ニ付自己ノ特別ナル智能ニ基キ新ニ下シタル判断ヲ報告スルモノナリ。特別ノ知識ニ依リ知得タル過去ノ事實ニ付報告ヲ爲サシムルハ所謂鑑定證人ニシテ其ノ本質證人タルヘシ故ニ證人ニ關スル規定ノ適用ヲ受ク第二百三十一條。實驗シタル事實其ノモノヲ供述スト謂フモ其ノ間必スヤ通常ノ智能ニ依ル判断存在スヘシ。此ノ意味ヨリセハ證人モ亦判断ヲ報告スルモノニ外ナラス。然レトモ鑑定人ハ判断ヲ爲スニ特別ノ智能ニ依ルモノニシテ何人ト雖爲シ得ヘキ判断ハ之ヲ鑑定ト謂フコトヲ得ス。鑑定人ハ事實上ノ判断ヲ爲スモノニシテ法律上ノ判断ハ裁判所自ラ之ヲ識得スヘキモノトス。此ノ他證人ノ意義ニ付述ヘタル所ヲ参照スヘシ。

鑑定ノ採否

二 鑑定ハ證人ノ證言ト等シク一ノ證據資料ニ過キス。其ノ採否ハ裁判所ノ自由ノ職權ニ屬ス。醫師ニ對シ被告人ノ精神狀態ノ鑑定ヲ命シタル場合ニ於テモ其ノ鑑定ハ直ニ被告人ノ心神喪失又ハ心神耗弱等ヲ確定スルモノニ非ス。

第二項 鑑定ヲ命シ得ヘキ場合

一 鑑定ヲ命シ得ヘキ場合ハ證人ヲ訊問シ得ヘキ場合ニ同シ第二百二十四條、即緊急事態ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキニ限り之ヲ行ヒ得ヘキモノトス。

第三項 鑑定人ノ義務

一 鑑定人ハ出頭義務、宣誓義務及鑑定義務ヲ負フ。概ネ證人ノ義務ニ同シ。鑑定人ハ出頭義務ニ違背スルモ勾引セラルルコトナシ第二百二十八條。檢事、司法警察官ニ對シテハ宣誓義務ヲ有セサルコト證人ノ場合ニ同シ。

出頭宣誓及鑑定ノ義務

第四項 鑑定命令ノ手續

召喚

第一 召喚

一 證人ヲ召喚スル場合ニ同シ。唯證人召喚ノ場合ト異リ召喚狀ニハ出頭セサ

訊問

豫備訊問

第二 訊問

一 鑑定人召喚ニ接シテ出頭シタルトキハ速ニ之ヲ訊問セサルヘカラス。鑑定人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否カヲ訊問シ次ニ刑事訴訟法第百八十六條第一項ニ規定スル關係ノ有無ヲ取調ヘ其ノ關係ノ存スルトキハ鑑定ヲ拒ミ得ルコトヲ告ケサルヘカラサルコト證人訊問ノ場合ニ同シ。第二百二十八條、第二百九十五條、第九十五條

二 司法警察官鑑定ヲ命スル場合ニハ鑑定ノ事項ハ司法警察官之ヲ指示スヘシ。例ヘハ死體ニ關シ他殺自殺ノ區別如何、死後ノ經過時間如何ト云フカ如シ。鑑定ノ經過及結果ハ一般ニハ鑑定人ヲシテ書面ニ依リ又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告セシムヘキモノナレトモ第二百一十一條司法警察官鑑定ヲ命シタルトキハ常ニ鑑定書ヲ提出セシムヘシ。蓋シ鑑定ハ特別ノ智能ニ依ル判斷ナルヲ以テ鑑定人ヲシテ口頭ニ依リ報告セシメ司法警察官其ノ調書ヲ作成スルハ困難ナル場合アルノミナラス往々誤謬ニ陥ルノ虞アルヲ以テナリ規程第百三條、第七十四條鑑定書ニハ鑑定

鑑定命令及鑑定報告

鑑定ノ場所

ノ時、場所、手續(方法、設備等)等ノ經過及鑑定ノ結果ヲ記載セシムヘシ第二百二十一條、規程第百三條、第七十四條提出シタル鑑定書ニシテ不明又ハ不備ノ點アルトキハ其ノ説明書ヲ提出セシメ鑑定書ニ添附スヘク規程第百三條、第七十一條鑑定書又ハ其ノ説明書ハ之ヲ訊問調書ニ添附スヘシ。

三 司法警察官鑑定ヲ命スル場合ニ於テハ原則トシテ警察署内ニ於テ之ヲ爲サシムヘシト雖必要アル場合ニ於テハ警察署外ニ於テ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得第二百一十條此ノ場合ニ於テハ鑑定ニ關スル物ヲ鑑定人ニ交付スルコトヲ得ヘシ第二百二十條鑑定ニ關スル物ヲ警察署外ニ持出サムトスルトキハ其ノ保管ニ付特別ノ注意ヲ要ス。裁判所又ハ豫審判事被告人ノ心神又ハ身體ニ關スル鑑定ヲ爲サシムルニ付必要アルトキハ期間ヲ定メテ病院其ノ他ノ相當ノ場所ニ被告人ヲ留置スルコトヲ得レトモ檢事及司法警察官等ハ斯ル處分ヲ爲スコトヲ得ス第二百二十八條

四 司法警察官ハ官署公署ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得第二百三十條鑑定ハ特定シタル個人ニ之ヲ命スルヲ原則トスレトモ便宜上醫科大學、衛生試驗所ト謂フカ如キ

官公署ニ於ケル鑑定

官署公署ニ囑託スルコトヲ得ルモノト爲セリ。囑託セラレタル官公署ハ之ニ應スヘキ義務ヲ有スルコト個人カ鑑定ヲ命セラレタル場合ニ同シ第二百二十八條

訊問調書

第三 鑑定人訊問調書

一 鑑定人訊問調書ノ作成ハ證人訊問調書ノ作成ニ付述ヘタル所ニ同シ。鑑定ヲ命シタル事項ヲ記載スヘキハ勿論ナリ第二百二(九號參照)

第五項 鑑定ノ方法

手段

一 鑑定ノ方法ニ付法ニ明文ナシ。苟モ公序良俗ニ反セス且具體の場合ニ鑑ミ妥當性ヲ失ハサル限り如何ナル方法ニ依リテモ鑑定ヲ爲スコトヲ得ヘシ。然レトモ身體ノ検査、死體ノ解剖又ハ物ノ毀壞ノ如キハ人ノ權利利益ニ關スル所重大ナルヲ以テ之等ノ方法ニ依ラムトスルトキハ司法警察官ノ命シタル鑑定人ハ其ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス第二百二十三條 司法警察官死體ノ解剖又ハ貴重品ノ毀壞ニ付鑑定人ヨリ許可ヲ求メラレタルトキハ檢事ノ指揮ヲ請ヒ之ニ從ヒテ

禮意

許否ヲ決スヘシ規範第百二條 其ノ他物ノ原形ヲ變シ又ハ數量ヲ著シク減損スルニ非サレハ鑑定ヲ爲サシムルコト能ハサル場合ニ於テモ檢事ノ指揮ヲ請フヘキモ規範第百三條 但シ以上ノ場合ニ於テ腐敗其ノ他ノ原由ニ因リ檢事ノ指揮アル迄其ノ物ヲ保存シ難キトキハ此ノ限ニ在ラス規範第百二條、第百三條、第七十二條

二 鑑定人ハ死體ヲ解剖スル場合ニ於テハ禮意ヲ失ハサルコトニ注意シ、遺族アルトキハ之ニ通知セサルヘカラス。之レ刑事訴訟法上鑑定人ノ負フ特別義務ナリトス第二百二十三條、第四百七十六條第四項 司法警察官ハ自ラ鑑定ヲ爲ス者ニ非スト雖之ヲ命シタル者ニシテ且遺族ノ何人ナルカノ如キハ司法警察官ヲ俟テ初メテ知り得ヘキ場合多キカ故ニ、司法警察官モ鑑定人ト共ニ此等禮意ヲ盡スコトニ注意シ、遺族アルトキハ之ニ通知シ遺族ナキモ近親アルトキハ成ルヘク之ニ通知スルノ處置ヲ執ルヘキモノトス第二百二十三條、第百七十六條、規範第百二條

鑑定資料

三 司法警察官ノ命シタル鑑定人ハ鑑定上必要アルトキハ其ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閱覽シ若ハ謄寫シ又ハ被疑者若ハ證人ノ訊問ニ立會フコトヲ得又鑑定人ハ被疑者若ハ證人ノ訊問ヲ求メ又ハ司法警察官ノ許可ヲ受ケ此等ノ者

ニ對シテ直接ニ問ヲ發スルコトヲ得第二百二十四條 鑑定人ニ充分ナル判斷ノ資料ヲ供與シ判斷ノ正鵠ヲ期シタルモノトス。

四 司法警察官ハ成ル可ク鑑定ノ現場ニ立會ヒ捜査上ノ參考ト爲ルヘキ事實ヲ發見セムコトニ努ムヘシ。蓋シ鑑定ヲ命シタル事項以外ニシテ捜査ノ參考ト爲ルヘキ事項ハ頗ル多カルヘキヲ以テ現場ニ立會ヒ之等ノ事實ヲ知得スルコトハ捜査ノ機宜ヲ失ハサラムカ爲極メテ緊要ナルヲ以テナリ。然レトモ鑑定ノ手續ハ一ニ鑑定人ノ選フ所ニ依ルヘク司法警察官等ノ干渉容喙ヲ許ササル所ナリトス規程第三百三條 第七十三條

五 鑑定人ハ旅費日當及止宿料ノ外鑑定料及立替金ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得以上ノ外證人ニ關スル規定ハ鑑定人ニ付準用セラルル故ニ前款ニ述ヘタル所ヲ參照スヘシ第二百二十八條

旅費日當等

鑑定ノ立會

第三節 通常捜査

第一款 總說

一 刑事訴訟法ニ於テハ前述シタルカ如ク強制處分ニ依ル捜査即強制捜査ニ關シテ規定スル所アリト雖強制處分ニ依ラサル一般ノ捜査即通常捜査ノ手續方法等ニ付テハ特別ノ規定ヲ爲サス。唯捜査ノ目的ヲ達スル爲強制處分ニ依ラサル範圍ニ於テ必要ナル取調ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ示スノミ第二百五十四條、規程第五十二條 犯罪捜査ノ事タル前述シタルカ如ク常ニ敏速ヲ要シ極メテ困難ノ事ニ屬ス。而モ犯人及犯罪ノ種類態様ハ千差萬別ナルヲ以テ總テノ捜査ニ當リ常ニ一定ノ形式ヲ以テ臨ミ難シ。之レ捜査ノ方法ヲ限定セスシテ其ノ目的ヲ達スル爲ニハ必要ナル取調ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定スル所以ナリトス。

通常捜査ニ關スル法規

通常捜査方法

二 斯ノ如ク通常捜査ニ於テハ強制的ニ人ノ權利利益ヲ犧牲トスルコトヲ許サス。人ノ權利利益ヲ害スヘキ捜査方法ニ依ラムトスルトキハ必ス其ノ權利利益ヲ害セラルル者ノ承諾ニ俟タサルヘカラス。又假令權利者ノ承諾アリトスルモ其ノ手續方法ニシテ公序良俗ニ反スルモノナルトキハ之ヲ許スヘカラサルコト法ノ本質ニ鑑ミ多言ヲ要セサル所ナルヘシ。職務規程第六十四條以下ニ於テ通常捜査ノ方法トシテ通常行ハルルモノニ付テ規定ヲ爲シタリ。款ヲ

改メテ之カ説明ヲ爲スヘシ。職務規範ニ於テ從來慣用セラレタル承諾ニ依ル
搜索ニ付何等言及セサル所以ノモノハ此ノ如キハ通常捜査ノ方法トシテ之ヲ
行フコトヲ避ケシムルノ趣旨ニ出ツ。

第二款 任意ノ出頭及陳述

出頭陳述
聽取書

一 捜査上必要アルトキハ被疑者其ノ他ノ關係者ニ任意ノ出頭ヲ求メ又ハ其ノ
所在ニ就キ若ハ承諾ヲ得テ犯所其ノ他ノ場所ニ同行シ其ノ陳述ヲ聽クコトヲ
得規條第六 強制捜査ニ於ケル被疑者又ハ證人ノ訊問等ニ該當ス。出頭同行及
陳述共ニ任意ナラサルヘカラス。任意ノ出頭ナルヲ以テ之ニ應セサル場合ニ
於テモ警察犯處罰令第三條第八號ニ依リ故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者ト
シテ處罰スルヲ得ス大正三年四月六日判例參照 陳述ヲ聽キタルトキハ聽取リタル者自ラ之
ヲ錄取セサルヘカラス。此ノ書類ヲ聽取書ト稱ス規條第六 明文ノ示スモノナ
シト雖聽取書ハ聽取ノ都度之ヲ作成シ陳述ノ經過ヲ明ニスルヲ要ス。聽取書
ノ效力方式等ニ付テハ前説明ヲ參照スヘシ第三百四十三條、規條第十號參照

始末書

二 事實簡單ナルカ又ハ聽カムトスル所數量ノ計算等ノ如キ特別ノ事情アルモ
ノナルトキハ一應取調ヲ爲スモ聽取書ヲ作ラスシテ任意ニ書面ヲ差出サシム
ルヲ適當トスヘク又當初ヨリ取調ヲ爲サス聽カムトスル所ヲ告ケテ任意之ニ
對スル答辯又ハ説明ノ書面ヲ徵スルコトヲ得規條第六 此等ノ書面ヲ通常始末
書ト稱ス。始末書ハ之ヲ提出スル者ノ任意ノ記載ナルヘク司法警察官吏ニ於
テ其ノ文案ヲ示スカ如キハ之ヲ避ケサルヘカラサルコト勿論ナリトス。始末
書ハ成ルヘク本人ノ自筆ヲ徵スヘシ。

第三款 任意ノ領置

領置ノ意

一 通常捜査ニ於ケル領置トハ所有者所持者又ハ保管者ノ承諾ヲ得テ證據物又
ハ證據ト爲ルコトアルヘシト思料スル物ノ占有ヲ國家ニ歸屬セシメ且其ノ承
諾ノ下ニ其ノ占有ヲ持續スルヲ謂フ。占有ノ持續モ亦被領置者ノ承諾ノ下ニ
存在スル點ニ於テ強制處分トシテノ領置ト其ノ趣ヲ異ニスルコトハ前ニ説明
シタルカ如シ。

二 被疑者其ノ他ノ者ノ遺留シタル物又ハ所有者所持者若ハ保管者ニ於テ任意ニ提出シタル物ハ之ヲ領置スルコトヲ得ヘシ。被疑事件ノ證據ト爲ルヘキ物ハ司法警察官ヨリ進ンテ所有者其ノ他ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置スヘク現ニ證據ト爲ルヘキ物ト思料セサレトモ將來證據ト爲ルコトアルヤモ計ラレスト思料セラルル物ニ付テモ亦夫々承諾ヲ得テ領置スヘキモノトス第四百六十二條、規領置ノ際被領置者ニ於テ無價物又ハ之ニ等シキ物品ナルカ故ニ所有權ヲ拋棄シ還付ヲ希望セサルトキハ調書、領置書等ニ之ヲ明記シ事件終了後ノ處分ヲ簡易ナラシムルコトヲ妨ケスト雖、被領置者ニ對シ單ニ取扱上ノ便宜ノ爲所有權ノ拋棄ヲ懲憑スルカ如キハ嚴ニ之ヲ避ケサルヘカラス。

三 質屋取締法第十六條又ハ古物商取締法第十七條ニ依リ質屋又ハ古物商ヨリ徵收シタル物品ニシテ遺失物盜品又ハ贓品ニ係ルトキハ警察官ハ之ヲ被害者ニ還付スルコトヲ得ト雖證據物トシテ留置ノ必要アリト思料シタルトキハ同條ニ依ル還付處分前領置ヲ爲スヘシ規第六十六條一旦還付處分ヲ爲シタル上更ニ領置ヲ爲スハ却テ煩雜ナルノミナラス還付前司法處分トシテ領置スルトキハ

其ノ物ノ歸屬ニ付裁判ノ結果ト行政還付ノ處分トノ間ニ齟齬ヲ生スルノ虞ナカルヘシ。

領置手續

四 領置ヲ爲シタルトキハ被疑事件名、領置番號、品目、數量被領置者ノ氏名住居及領置年月日ヲ記載シタル領置書ヲ作り且領置物ニ付右領置書ニ照應スル件名番號及被領置者ノ氏名ヲ表示スヘシ。所有者所持者保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ領置物受領書ヲ交付スヘシ規第六十七條、刑(樣式第二十) 訴法第六十三條(一號參照)

五 領置物ノ保存、還付及假還付ニ關シテハ押收物ニ付テ述ヘタル所ヲ參照スヘシ規第六十八條、第六十九條、第九十六條、刑訴法第六百六十四條、第六十六條、第六十七條、第六十七條、第七十四條

保存還付假還付

第四款 實況見分

一 犯所其ノ他ノ場所ニ就キ實況ヲ明カニスルノ必要アルトキハ其ノ場所ノ所有者、保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾ヲ得テ見分ヲ爲スコトヲ得規第七十條強制捜査ニ於ケル檢證ニ相當スル捜査方法ナリ。承諾ヲ得ルコトヲ要スト爲シタルハ見分ノ處分カ實質上所有權等ヲ侵害スル結果ト爲ル場合ヲ謂フモノニシ

概事へ引

實況見分

テ圍障ナキ田畠等ヲ其ノ土地ニ立入ルコトナク單ニ見分スルカ如キ場合ニハ承諾ヲ得ルノ手續ヲ要セスト解スヘク又場所ニ付テノ外移轉ニ不便ナル物件ノ如キニ付テモ亦見分ノ要アルヘク之ヲ禁スルノ趣旨ニハ非サルナリ。

二 司法警察官實況見分ニ着手シタル後事案ノ情況檢事ノ見分又ハ臨檢ヲ必要ト思料スルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告シ自ラ見分ヲ終了シタルト否トヲ問ハス原狀ヲ保存シ置クコトヲ要ス規範第七十條臨檢トハ犯所其ノ他ノ場所ニ臨ミテ爲ス檢證ヲ謂フコト前述シタルカ如シ。

三 司法警察官實況見分ヲ爲シタルトキハ其ノ狀況ヲ錄取スヘシ講學上實況見分書ト稱ス。其ノ作成ニ關シテハ檢證調書ノ作成ニ準スヘク尙調書ニ見分ヲ受クル者ノ承諾ニ基クコトヲ記載スヘシ。但シ司法警察官ノ實況見分ヲ爲シタル後之ニ引續キ檢事見分又ハ臨檢ヲ爲シ檢事ニ於テ實況見分書ヲ作成スルノ必要ナシト認メタルトキハ司法警察官之ヲ作成スルコトヲ要セス規範第七十條事案簡單ニシテ且急速ヲ要シ止ムヲ得サルトキハ司法警察吏ニ於テ實況見分書ヲ作成スルヲ妨ケス。(様式第二十) (二號參照)

第五款 鑑定囑託

鑑定ノ意

鑑定資料

強制捜査ノ鑑定ノ準用

- 一 鑑定ヲ必要トスルトキハ特別ノ學識經驗アル者ニ之ヲ囑託スルコトヲ得通常捜査ニ於ケル鑑定ハ強制的ニ之ヲ命スルコトヲ得ス鑑定ヲ爲ス者ノ任意ノ承諾ニ基クコトヲ要ス。強制捜査ニ於ケル鑑定ト名稱同一ナレトモ其ノ意義異ル。鑑定ヲ囑託セムトスルニハ誠實ニ鑑定ヲ爲シ得ヘキ者ヲ選定セムコトニ注意ヲ要ス。被疑者ト特別ノ關係アル者ノ如キハ時ニ其ノ鑑定誠實ヲ缺クノ虞アレハナリ。鑑定ハ官公署ニモ之ヲ囑託スルコトヲ得規範第七十一條、刑訴法第二百二十二條
- 二 鑑定ハ其ノ方法如何ニ因リ他人ノ權利ヲ害スルニ至ル場合アリ。例ヘハ通常捜査ニ於テ領置シタル藥物ニ付鑑定ヲ爲サムトスルニハ其ノ幾分ヲ消耗セサルヘカラス。斯ル場合ニ於テハ之ニ付權利ヲ有スル者ノ承諾ヲ得サルヘカラス規範第七十二條即鑑定ノ囑託ハ鑑定人ノ承諾ヲ條件トスルノミナラス鑑定材料ニ付權利ヲ有スル者ノ承諾ヲ要スル場合アリト知ルヘシ。
- 三 鑑定ニ付鑑定資料ノ變形又ハ減損スヘキ場合ニ於ケル注意規範第七十二條 鑑定ノ

現場ノ立會規範第七條 鑑定書又ハ其ノ説明書ノ作成規範第七條ニ付テハ強制捜査タル鑑定ニ付述ヘタル所ヲ参照スヘシ。

第六款 公務所ヘノ照會

一 捜査ニ付テハ公務署ヘ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得第二百五十四條 公務所トハ官署公署等公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ刑法第七條 報告ヲ求メラレタル公務所ハ之ニ應シテ報告ヲ爲スノ義務ヲ有ス。但シ報告義務ノ中ニハ物件送付ノ義務ヲ包含セス。

第七款 強制處分ノ請求

一 通常捜査ノ場合ニ於テハ強制處分ヲ爲スコトヲ得ス。然レトモ檢事ハ捜査ヲ爲スニ付強制ノ處分ヲ必要トスルトキハ公訴ノ提起前ト雖押收、搜索、檢證及被疑者ノ勾留、被疑者若ハ證人ノ訊問又ハ鑑定ノ處分ヲ其ノ所屬裁判所ノ豫審判事又ハ所屬區裁判所ノ判事ニ請求スルコトヲ得。請求ニシテ適法ナル限り

起訴前ノ強制處分

起訴前ノ強制處分
司法警察官

請求ヲ受ケタル豫審判事又ハ區裁判所判事ハ之ニ應スルノ義務アリ。講學上之ヲ起訴前ノ強制處分又ハ裁判上ノ捜査處分ト謂フ。請求ヲ受ケタル判事ハ其ノ處分ヲ爲スニ付豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス。判事請求ヲ受ケタル處分ヲ爲シタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘキモノトス。右ノ手續ニ依リ被疑者ヲ勾留シタル事件ニ付十日以内ニ公訴ヲ提起セサルトキハ檢事ハ速ニ被疑者ヲ釋放スヘキモノトス第二百五十五條至第二百五十七條 右ノ強制處分ハ檢事ノミ之ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス。司法警察官ハ檢事ニ於テ右ノ強制處分ノ請求ヲ爲スノ必要アリト思料スルトキハ其ノ事情ヲ檢事ニ對シテ詳細ニ申報シ以テ檢事カ右ノ請求ヲ爲スコトヲ促ササルヘカラス規範第七條、第十八條

第三章 令狀

第一節 令狀ノ種類及其ノ性質

一 新刑事訴訟法ニ於テハ舊法ト異リ令狀ノ語ヲ用キス。本章令狀ト稱スルハ

令狀ノ種類

本論 第二編 捜査 第二章 捜査ノ實行 第三節 通常捜査 第六款 公務所ヘノ照會 第七款 強制處分ノ請求 第三章 令狀 第一節 令狀ノ種類及其ノ性質

召喚狀

(一) 召喚狀 (二) 勾引狀 (三) 勾留狀 (四) 逮捕狀 (五) 命令狀ヲ謂フ。故ニ舊法ニ於ケル命令狀ト其ノ意義ヲ同ウセス。

二 召喚狀トハ訊問ノ目的ヲ以テ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ對シテ一定ノ日時ニ一定ノ場所ヘ出頭ヲ命スル書面ナリ。召喚狀ハ命令タルノ效力ヲ有ス。從ツテ被告人再度ノ召喚ヲ受ケ故ナク出頭セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得ヘク第六十八條 證人召喚ヲ受ケテ出頭セサルトキハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ直ニ之ヲ勾引スルコトヲ得ヘシ第八十六條、第九十一條、第九十六條、第一百二十八條、第二百三十一條、第二百三十六條 又召喚ヲ受ケタル證人、鑑定人、通事、翻譯人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ之ヲ科料ニ處シ且出頭セサルニ因リテ生シタル費用ノ賠償ヲ命スルコトヲ得ヘシ第九十條、第一百二十九條、第二百三十八條、第二百三十九條

司法警察官ハ前述シタルカ如ク特定ノ場合ニ於テ證人、鑑定人、通事及翻譯人ニ對シテ召喚狀ヲ發スルコトヲ得レトモ第一百二十四條、第二百二十六條 被告人又ハ被疑者ニ對シテハ召喚狀ヲ發シ得ヘキ場合存セス。又通常捜査ノ場合ニ於テ被疑者其ノ他ノ關係者ニ對シテ出頭ヲ促ス爲ニ發スル書面ヲ通常呼出狀ト稱スレト

勾引狀

モ此ハ何等強制力ヲ有セサルモノニシテ固ヨリ召喚狀ニ非サルナリ。

三 勾引狀トハ訊問ノ目的ヲ以テ被告人、被疑者、證人ヲ指定ノ場所ヘ出頭セシムル命令ヲ記載シタル書面ヲ謂フ。司法警察官ハ其ノ召喚ニ應セサル證人ニ對シテ獨立シテ勾引狀ヲ發スルコトヲ得。被告人又ハ被疑者ニ對シテハ裁判長、豫審判事又ハ檢事ヨリ囑託又ハ命令アリタル場合ニ限り勾引狀ヲ發スルコトヲ得第九十四條、第二百二十條、第二百二十三條

勾留狀

四 勾留狀トハ被疑者又ハ被告人ヲ指定セラレタル監獄ニ拘禁スル命令ヲ記載シタル書面ヲ謂フ。司法警察官カ勾留狀ヲ發シ得ヘキ場合存セス第九十一條、第九十七條、第一百九條(機式第二十號參照)

逮捕狀

五 逮捕狀トハ體刑(死刑、懲役、禁錮又ハ拘留)ノ言渡ヲ受ケ其ノ裁判ノ確定シタル者ニ對シテ刑ヲ執行スル爲一定ノ場所ヘ出頭セシムル命令ヲ記載シタル書面ヲ謂フ即特定ノ場所ヘ強制的ニ出頭ヲ命スル點其ノ他ニ於テ勾引狀ト同一ノ效力ヲ有スルモノニシテ第五百四十七條乃至第五百五十一條 舊刑事訴訟法ニ於ケルカ如ク勾留狀ト同一ノ效力ヲ有スルモノニ非ス。逮捕狀ハ原則トシテ檢事之ヲ發スルモノナレ

命令狀

トモ體刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキハ檢事
 ハ司法警察官ヲシテ之ヲ發セシムルコトヲ得第五百四(様式第二十)條
 六 命令狀トハ裁判所豫審判事受命判事受託判事又ハ區裁判所判事カ押收スヘ
 キ物又ハ搜索スヘキ場所身體若ハ物ヲ指定シテ司法警察官ニ對シ押收又ハ搜
 索ヲ命シタル書面ナリ第五百十條、第五百十(様式第二十)條、第六十九條(六號參照)

第二節 令狀ノ執行

第一款 召喚狀ノ送達

一 召喚狀ハ一般書類ノ送達ニ關スル規定ニ從ヒ之ヲ送達スヘキモノトス第九十
 百九十二條、第二百三十四條、第二
 百二十八條、第二百三十六條 此ニ依レハ別段ノ規定アル場合ノ外ハ民事訴訟法ノ
 規定民事訴訟法第百三十六條 準用セラル。但シ民事訴訟法ニ於テ裁判所書記ニ屬ス
 ル職務ハ司法警察官ニ於テ之ヲ行ヒ、執達吏ニ屬スル職務ハ司法警察吏之ヲ行
 フヘキモノトス第八十條 故ニ司法警察官ハ自ラ召喚狀ヲ作成シ之ヲ郵便ニ依リテ

召喚狀ノ送達

猶豫期間

送達スルカ又ハ司法警察吏ヲシテ送達ヲ施行セシムヘキモノトス民事訴訟法第百送
 達ヲ施行シタル司法警察吏ハ送達證書ヲ作成セサルヘカラス。(様式第二十)條
 二 司法警察官ハ被疑者ヲ召喚スヘキ場合存セス。故ニ召喚狀ヲ送達スルハ主
 トシテ證人、鑑定人ヲ召喚スル場合ニ適用アルヘシ。召喚狀ノ送達ト出頭トノ
 間ニハ少クトモ二十四時間ノ猶豫ヲ存スルコトヲ要シ唯急速ヲ要スル場合ニ
 於テハ此ノ猶豫ヲ存セサルコトヲ得ルモノト爲セリ第四百九十四條 而シテ司法警察官
 カ證人等ヲ召喚スルハ緊急事態又ハ現行犯人ヲ逮捕シ又ハ受取りタル場合ノ
 如キ概ネ急速ヲ要スル場合ナルヲ以テ此ノ猶豫期間ヲ存スルコトヲ要セサル
 場合多カルヘシ。

送達ナクシテ訊問
合シ得ル場

三 證人、鑑定人等ハ召喚狀ノ送達ヲ受クルニ非サレハ法律上出頭ノ義務ヲ負擔
 スルニ至ラス。從テ證人出頭セサル場合ニ於テモ召喚狀ノ送達ヲ受ケタルニ
 非サル限り勾引セララルコトナク又過料ニ處セラレ若ハ賠償ヲ命セララルコ
 トナシ。鑑定人モ亦科料ニ處セラレ又ハ賠償ヲ命セララルコトナシ。然レト
 モ之等ノ者カ召喚狀ノ送達ヲ受ケスシテ任意ニ警察官署へ出頭シタル場合ニ

之ヲ證人トシテ訊問スルコトヲ妨ケス第八十五條、第二百四條故ニ司法警察官證人又ハ口頭ノ告知ニ依リテ之ニ任意ノ出頭ヲ促シ出頭ニ應シタル場合又ハ之等ノ者カ偶々警察署構内ニ在ル場合ニ於テハ證人又ハ鑑定人トシテ直ニ之ヲ訊問スルコトヲ得ヘシ。

第二款 勾引狀、勾留狀及逮捕狀ノ執行

執行指揮

一 勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行トハ之等ノ書面ニ記載セラレタル命令ヲ實行スルノ謂ナリ。勾引狀又ハ勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ司法警察官吏之ヲ執行ス。但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ裁判長、受命判事、豫審判事、區裁判所判事其ノ執行ヲ指揮スルコトヲ得。監獄ニ在ル被告人ニ對シテ發シタル勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ監獄官吏之ヲ執行ス第一百條逮捕狀ノ執行ニ付テハ勾引狀ノ執行ニ關スル規定準用セラ第二百五條、第十二條勾引狀、勾留狀ノ執行ハ右ノ如ク檢事之カ執行ヲ指揮スルヲ以テ原則トシ事急速ヲ要シテ檢事ノ指揮ニ依ルコトヲ得サルカ如キ場合ニ於テハ例外トシテ之ヲ發シタル裁判長、受命判事、豫審判事又ハ

執行指揮
ヲ要セザ
ル場合

指揮ノ形
式

執行者

區裁判所判事ハ檢事ヲ經由セスシテ直接ニ司法警察官吏ニ對シテ之カ執行ヲ指揮スルコトヲ得ルモノナリ。例ヘハ受命判事、豫審判事等カ出張先ニ於テ檢事ノ現在セサル場合ニ之等ノ令狀ヲ發シタルトキノ如キ此ノ規定ノ適用アリ。
二 判事又ハ檢事ニ於テ發スル勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ニ付テハ右ニ述フルカ如クナレトモ司法警察官カ自己ノ獨立ノ權限ニ基キテ發スル證人ニ對スル勾引狀ニ付テハ檢事ノ執行指揮ヲ受クルコトヲ要セス。又裁判長若ハ豫審判事ノ囑託又ハ檢事ノ命令ニ依リテ發スル勾引狀又ハ檢事ノ命令ニ依リテ發スル逮捕狀ニ付テモ別ニ裁判長、豫審判事又ハ檢事等ノ執行指揮ヲ受クルノ必要ナク囑託又ハ命令ニ當然執行ノ指揮ヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トス。
三 之等令狀ノ執行指揮ニ法定ノ形式ナシ。執行ヲ指揮シタル檢事又ハ判事ハ令狀ノ欄外等ニ指揮者ノ何人タルカヲ知ルニ足ルヘキ記載又ハ捺印ヲ爲スヲ適當トス。
四 舊刑事訴訟法ニ於テハ勾引狀、勾留狀等ノ執行ニ當ルヘキ者ハ巡查憲兵卒ニ

限リタレトモ新法ニ於テハ之等司法警察吏ノミナラス、司法警察官モ亦之ニ當

執行ノ手

ルヘキモノト爲セリ。蓋シ事案ニ依リ司法警察官ニ於テ執行ヲ爲スヲ適當ト
 スル場合存スヘキヲ以テナリ。勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ハ其ノ執行ヲ命セラ
 レタル當該司法警察官吏ノミナラス其ノ官署ニ勤務スル他ノ司法警察官吏ニ
 於テモ之ヲ執行スルコトヲ得規範第百五條之レ其ノ執行ノ敏捷ヲ期セムカ爲ナリ。

五 勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ヲ執行スルニハ之ヲ執行ヲ受クル被告人、被疑者又
 ハ證人等ニ示シテ指定ノ場所又ハ令狀ヲ發シタル官署ニ引致スヘキモノトス
第百三條、第百三十一條、第百九十三條之等ノ令狀ヲ執行スル場合ニ於テハ成ルヘク穩當ノ方法ヲ用
 ヒ必要ノ限度ヲ超エテ強制ヲ加フルコトナク且他人ヲシテ執行ヲ受ケタル者
 ナルコトヲ覺知セシメサルコトニ注意セサルヘカラス規範第百八條令狀ヲ執行スル
 ニ當リ衆人環視ノ間ニ於テ之ヲ示シ必要ノ限度ヲ超エテ制縛ヲ加ヘ又ハ一見
 捕繩ヲ施シタルコトヲ認知シ得ルカ如キ狀態ニテ公衆ノ間ヲ同行スルカ如キ
 ハ孰レモ之ヲ避ケサルヘカラス。令狀ノ執行ヲ受ケタル者ハ其ノ臍本ノ交付
 ヲ請求スルコトヲ得第百四條但シ此ノ請求ハ此等ノ令狀ヲ發シタル官署ニ對シテ
 爲スヘキモノニシテ現ニ執行ノ實務ニ當リタル司法警察官吏ニ對シテ爲スヘ

キモノニ非ス。

執行ノ敏

囑執行ノ轉

六 司法警察官吏勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ノ指揮ヲ受ケタルトキハ速ニ
 其ノ執行ノ手續ヲ爲スヘク若シ其ノ手續遲延スルノ事情アルトキハ其ノ旨ヲ
 執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告スルコトヲ要ス。執行ノ見込ナキ
 ニ拘ラス之ヲ漫然留置クカ如キハ之ヲ避ケサルヘカラス。又之等ノ令狀ヲ執
 行セントスルニ當リ執行ヲ受クヘキ者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ又ハ執行ニ
 因リ著シク健康ヲ害スル虞アルトキハ其ノ旨ヲ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他
 ノ官署ニ報告シテ右ノ事情ニ拘ラス執行ヲ爲スヘキヤ否ニ付指揮ヲ受クヘキ
 モノトス。司法警察官命令又ハ囑託ニ依リテ自ラ勾引狀ヲ發シ又ハ命令ニ因
 リテ逮捕狀ヲ發シタル場合ニ於テモ之ニ準スヘキモノトス規範第百四條

七 勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ニ指定セラレタル被告人、被疑者、證人又ハ裁判ノ言
 渡ヲ受ケタル者等カ執行ノ指揮ヲ受ケタル司法警察官吏ノ管轄區域外ニ在ル
 トキハ其ノ現在地ヲ管轄スル司法警察官ニ該令狀ヲ直接ニ送付シテ執行ヲ求
 ムルコトヲ得ヘシ。此ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ該令狀ノ發付ヲ命令若ハ

命令狀ノ處
置

囑託シタル官署又ハ執行ヲ指揮シタル官署ニ報告シテ常ニ其ノ命令狀ノ所在ヲ知ラシメサルヘカラス。但シ勾引狀及逮捕狀ニ付テハ必要アル場合ニ於テハ管轄區域外ニ到リテ自ラ執行ヲ爲スコトヲ妨ケス第百五十二條第五執行ノ求ヲ受ケタル司法警察官ハ所轄檢事ノ指揮アリタル場合ト同シク執行ノ義務ヲ生スヘク執行ヲ爲シタル上ハ之ニ關スル書類例ヘハ命令狀ノ原本又ハ執行ノ爲ニ爲シタル搜索ノ調書第百七十七條ノ如キハ執行ヲ受ケタル者ノ身柄ト共ニ夫々前記ノ官署ヘ直接ニ送致スヘク所轄檢事ヲ經由スルコトヲ要セサルモノトス規範第百六條

八 司法警察官勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ヲ執行シタルトキハ之ニ執行ノ場所及年月日時ヲ記載シ之ヲ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ記名捺印スヘキモノトス。之等命令狀ノ執行ニ關スル書類ハ之ヲ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ヘ差出スヘキモノトス第百九條司法警察官檢事又ハ裁判長等ノ命令又ハ囑託ニ因リテ自ラ勾引狀又ハ逮捕狀ヲ發シ之ヲ執行シタル場合ニ於テモ其ノ原本ハ右ノ檢事其ノ他ノ官署ヘ差出スヘキモノトス。又證人ニ對シテ自ラ發シタル勾引狀ヲ執行シタルトキニ於テモ其ノ原本ヲ當該證人ニ對ス

命令狀ヲ
發スヘキ
場合

ル訊問調書ト共ニ檢事ニ送付セサルヘカラス。檢事又ハ裁判長ノ命令又ハ囑託ニ因リテ發シタル命令狀ヲ執行スルコト能ハサルトキハ之ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ送付スヘキモノトス。執行スルコト能ハサル事由ニシテ命令狀ニ指定セラレタル者ノ所在不明等ニ基因スルカ如キ場合ナルトキハ其ノ最後ノ住居ニ關スル報告等參考トナルヘキ事項ヲ同時ニ報告スヘキモノナリ規範第百七條

第三款 命令狀ノ執行

一 命令狀ニハ單ニ押收スヘキ物ヲ指定シタル押收命令狀ト搜索スヘキ場所、身體若ハ物竝押收スヘキ物ヲ指定シタル搜索押收命令狀トアリ得ヘシ。前者ハ押收スヘキ物ノ所在明ニシテ搜索ヲ俟ツノ必要ナキ場合ニ發セラレ、後者ハ押收スヘキ物ハ確定シ居レトモ其ノ所在判明ナラサルヲ以テ搜索ヲ爲シタル上之ヲ押收スヘキコトヲ命スル場合ニ於テ發セラルルモノトス。孰レノ場合ニ於テモ押收スヘキ物ハ確定シ居ルコトヲ要ス。裁判所審判ヲ爲スニ當リ押收

執行手續

又ハ搜索ヲ必要トスルトキハ自ラ之ニ當ルヲ原則トスレトモ既ニ押收スヘキ物ノ確定シ居ルカ如キ場合ニ於テハ司法警察官ヲシテ之ヲ行ハシムルヲ以テ敏速ニ其ノ目的ヲ達シ得ルコトアルニ因リ司法警察官ヲシテ押收又ハ搜索ニ當ラシムルモノトス。

二 斯ノ如ク裁判所カ司法警察官ヲシテ押收又ハ搜索ヲ行ハシムルハ例外ノ場合ニ屬スルヲ以テ命令狀ニハ押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ物場所等ヲ指定スルノミナラス之ヲ爲スヘキ事由ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スルコトヲ要シ且此ノ處分ヲ受クル者ノ請求アルトキハ之ヲ呈示スルコトヲ要スルモノト爲シ以テ濫用ナカラシメムコトヲ期シタリ。故ニ搜索押收命令狀ヲ受ケタル場合ニ於テ押收スヘキ物指定シタル搜索ノ場所以外ニ存スヘシトノ疑アリトモ其ノ命令狀ニ依リテハ指定以外ノ場所ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得サルヘシ。但シ指定セラレタル場所ヲ搜索シタルノ結果若ハ指定セラレタル場所ヲ搜索スルニ先チ押收スヘキ物指定ノ場所以外ニ存在スルコト明ニシテ搜索ヲ爲スノ必要ナキ場合ニ於テハ搜索ヲ指定セラレサリシ場合ト等シク同命令狀ニ依リテ他

指定物以外ノ押收

ノ場所ニ於テ直ニ押收ヲ爲スヲ妨ケサルヘシ。搜索押收命令狀ヲ執行スル場合ト雖必要ナキトキハ必スシモ搜索ヲ爲シタル上押收スルコトヲ要セサレハナリ。

三 前ニ述ヘタルカ如ク司法警察官ハ命令狀ニ依リテ押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リテ當該被告事件ニ關スル證據物ニシテ命令狀ニ記載セサルモノヲ發見シタルトキハ臨機ノ處分トシテ之ヲ押收スルコトヲ得ヘシ第一百五十一條故ニ命令狀ノ執行ヲ爲ス司法警察官ハ特ニ當該事件ノ内容ヲ知悉スル者ヲシテ當ラシムルヲ適當トス。裁判所其ノ他ヨリ命令狀ヲ發スル場合ニ於テハ特定ノ司法警察官ヲ指定スヘシト雖之ヲ執行スルハ指定セラレタル者ノ官署ニ勤務スル他ノ司法官ニ於テモ之ヲ執行スルヲ妨ケス規範第百九條

四 命令狀ハ之ヲ發スル官署ヨリ檢事ヲ經由セスシテ直接司法警察官ニ交付シテ執行セシムルヲ原則トス。然レトモ既ニ押收搜索ノ處分ヲ了シタル上ハ其ノ結果ヲ檢事ヲシテ了知セシムル必要アルヲ以テ押收搜索ニ關スル書類及押收物ハ檢事ヲ經由シテ裁判所ヘ差出スヘキモノトナセリ第一百五十二條命令狀ニ因リ

執行後ノ處置

テ押收搜索ノ手續ヲ爲シタルトキハ假令押收スヘキ物ヲ發見セザリシ場合ト雖速ニ其ノ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ヘ返還スヘキモノトス此ノ場合ニ於テハ押收又ハ搜索ノ手續ノ顛末及參考ト爲ルヘキ事項ヲ圖書ニ記載シ命令狀ト共ニ送付スヘキコトヲ要ス規程第百十條押收又ハ搜索ニ著手シタルモ其ノ結果ヲ得ザリシ場合ニ於テ其ノ命令狀ヲ手許ニ留メ置キ同命令狀ヲ以テ再三押收又ハ搜索ノ手續ヲ繰リ返スカ如キハ法ノ認ムル所ニ非ス。

第四章 搜查事件ノ處理

一 司法警察官被疑事件ニ付搜查ヲ終ヘタルトキハ速ニ之ヲ其ノ勤務地ヲ管轄スル區裁判所又ハ地方裁判所ノ檢事ヘ送致スルコトヲ要ス。搜查ノ端緒如何ヲ問ハス規程第百一十一條又犯罪成否如何ヲ問ハサルナリ。送致ノ當時ニ於テ其ノ裁判所カ當該事件ニ付土地管轄第一條ヲ有セサル場合亦然リ。此ノ事タル法ニ明文ナシト雖檢事カ搜查ノ中樞ニシテ司法警察官ハ其ノ輔佐タルノ關係上當然ノ事ナリトス。當該事件ノ法定刑ニシテ死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役又

事件ノ送致

送致不要事件

即決事件

微罪事件

ハ禁錮ニ該ル罪即舊刑事訴訟法ニ所謂重罪ト看做スヘキモノナルトキ刑法施行法第二十九條ハ常ニ地方裁判所ノ管轄事件ナルヲ以テ裁判法第十六條之ヲ地方裁判所檢事ニ送致シ、其ノ以外ノ事件ニ付テハ事件ノ内容ノ難易ニ從ヒ地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事ヘ送致スルヲ適當トス。大審院ノ特別權限ニ屬スル事件裁判法第五十條第二ニシテ檢事總長ヨリ搜查ヲ命セラレタル場合ニ第四百七十七條其ノ搜查ヲ終ヘタルトキハ事件ヲ檢事總長ヘ送致スヘキハ勿論ナリ。

二 搜查ヲ終ヘタル事件ハ原則トシテ總テ檢事ニ送致スヘキモノナレトモ例外トシテ事件ノ送致ヲ要セサル場合アリ、次ノ如シ。

(一) 即決スヘキ事件、違警罪即決例ニ依リ即決ヲ爲シ得ヘキ拘留又ハ科料ニ該ル罪ニシテ告訴發又ハ自首ニ係ラサルモノナルトキハ檢事ヘ送致スルコトヲ要セス。此ノ場合ニ於テ當該司法警察官自ラ即決ヲ爲スノ權限ヲ有スルモノナルトキハ直ニ即決處分ニ附シ然ラサルトキハ即決權ヲ有スル官署ヘ送致スヘキモノトス第二百四十七條、違警罪即決例第一條、規程第百一十一條

(二) 檢事ヨリ微罪トシテ豫メ指定シタル事件罪ト爲ラサルコト又ハ犯罪ノ嫌

(三)

疑ナキコト明ナルニ至リタル場合規範第百十二條 司法警察官捜査ヲ爲シタルトキハ其ノ結果罪ト爲ラス又ハ犯罪ノ嫌疑ナキコト明ナルニ至リタルトキト雖之ヲ檢事ニ送致スルヲ以テ原則トス。然レトモ當該事件ニシテ檢事ヨリ豫メ微罪トシテ指定シタル範圍内ノ事件ナル場合ニ於テハ之ヲ送致スルコトヲ要セス又何等ノ報告ヲモ要セサルモノト爲シタリ。然レトモ檢事ヨリ豫メ此ノ種ノ微罪事件ヲ指定セラレサル場合ニ於テハ此ノ問題ヲ生セズ。

微罪處分ヲ爲シ得ヘキ場合、犯罪事實極メテ輕微ニシテ處罰ノ必要ナキ場合ニハ事件ヲ檢事ニ送致セスシテ微罪處分ヲ爲スコトヲ得規範第百十三條 即微罪處分トハ前項ノ如ク犯罪不成立ノ場合ニ於ケル處置ヲ規定シタルモノニ非スシテ犯罪成立スルニ拘ラス事件ヲ檢事ニ送致セス、司法警察官ニ於テ終結處分ヲ爲スヲ謂フ。犯罪事實極メテ輕微ナリヤ否及處罰ノ必要ナキヤ否ハ各場合ニ付司法警察官ニ於テ判斷ヲ爲スヘキ事項ナリトス。規範第百十二條ノ規定ニ依リ檢事ヨリ豫メ微罪トシテ指定セラレ居ル事件ノ如キハ概ネ輕微ナル事犯ナルヘシト雖微罪處分ヲ爲シ得ル範圍ハ必スシモ之ト同一ナ

ルコトヲ要セス但シ所轄檢事ニ於テ第百十二條ノ微罪事件ヲ豫定セス、却テ第百十三條ノ微罪處分ヲ爲シ得ル範圍ヲ指示シタル場合ニ於テハ司法警察官ハ其ノ趣旨ニ從ヒテ事件ヲ處理セサルヘカラス。微罪處分ハ從來モ亦實行セラレタル所ナレトモ新刑事訴訟法ニ於テ檢事ニ便宜主義ヲ許スノ明文ヲ設ケタル趣旨第二百七十九條ニ鑑ミ職務規範ニ於テ之ヲ明言シタルモノトス。司法警察官微罪處分ヲ爲スニ當リテハ犯罪ノ成立スルニ拘ラス微罪處分ヲ爲ス所以ヲ嚴肅且懇切ニ說示シ再犯ナカラシメムコトヲ期スヘク微罪ハ法ノ問フ所ニ非サルカ如キ觀念ヲ懷カシメサルコトヲ要ス。微罪處分ニ附シタルトキハ之ヲ檢事ニ報告セサルヘカラサルモ必スシモ記録ノ作成ヲ要セサルナリ。茲ニ明文ヲ缺クト雖犯罪成立スルモ微罪處分ヲ爲シ得ヘキ事件ニ付罪ト爲ラス又ハ犯罪嫌疑ナキコト明ナルニ至リタルトキハ規範第百十二條ニ依リ指定セラレタル事件ニ該當セスト雖之亦檢事ヘ送致スルヲ要セサルモノト解スヘキモノトス。

以上(二)(三)ノ場合ニ於テハ其ノ事件告訴、告發若ハ自首ニ係ルトキ又ハ檢事ニ於

少年事件

意見書

- テ特ニ送致ヲ命シタル場合ニ於テハ右ノ規定ニ係ラス檢事へ送致スルコトヲ要ス規範第百十四條故ニ微罪處分ヲ爲スニ當リテモ時ニ檢事ヨリ事件ノ送致ヲ命セラルル場合アルヘキヲ顧慮シテ被疑者ニ説示スルコトニ注意セサルヘカラス。
- 三 微罪處分ヲ爲スヘキ事件ト思料セラルル場合ト雖其ノ犯罪ニシテ少年ニ係ル事件ナルトキハ微罪處分ヲ爲サシテ檢事ニ送致スヘキモノトス規範第百二十二條少年トハ本來十八歳未滿ノ者ヲ總稱スレトモ茲ニ少年トハ十八歳未滿ニシテ刑事責任年齢即滿十四歳以上ノ者ヲ指稱ス蓋シ斯ノ如キ少年事件ニ付テハ檢事ニ於テ特別ノ處置ヲ爲スコトヲ必要トスルヲ以テナリ少年法第六十二條、第四條
- 四 司法警察官事件ヲ送致スルニハ事件ニ對スル意見ヲ付シ且參考ト爲ルヘキ事項ヲ報告セサルヘカラス。意見トハ司法警察官ノ認定シタル事實之ニ對スル證憑法律ノ適用又ハ犯罪ノ狀情等ニ關スル判斷ヲ謂フ。此ノ如ク意見書ハ司法警察官ノ當該事件ニ對スル終局的ノ判斷ナルヲ以テ其ノ觀察ハ最適正ナラサルヘカラス。尙訊問調書、聽取書等ノ搜查書類及差押ヘ又ハ領置シタル物ハ意見書ト共ニ檢事ニ送付スルコトヲ要ス規範第百一十一條、樣式第二十八號及第二十九號參照

送致後ノ注意

特別裁判所事件

- 五 司法警察機關ノ搜查ハ要領ヲ得テ事件ヲ送致スルヲ以テ主タル目的ト爲セトモ事件送致後ト雖檢事ニ於テ搜查中ハ勿論假令公訴提起セラレタル後ト雖適正ナル處理及裁判ヲ爲サシメ且有罪ノ場合ニ於テハ刑ノ執行ニ遺憾ナカラシムルコトモ亦其ノ任務ノ一ナルヲ以テ事件ノ送致ニ因リ任了レリト爲スヘカラス。常ニ其ノ事件ニ注意シ被疑者、被告人ノ利益不利益ニ拘ラス事件ノ搜查審判上參考ト爲ルヘキ事項ヲ發見シタルトキハ速ニ檢事ニ報告セサルヘカラス規範第百十五條
- 六 以上ハ被疑事件カ通常裁判所即區裁判所、地方裁判所又ハ大審院ノ管轄ニ屬スル場合ニ付述ヘタルカ若シ其ノ事件軍法會議又ハ植民地ノ裁判所等ノ如キ特別裁判所ノ管轄ニ屬スルコト明ナルニ至リタルトキハ事件ヲ直接ニ相當官署へ送致スヘキモノニシテ所轄檢事ヲ經由スルコトヲ要セス。而シテ當該事件、告訴、告發、自首ニ係ルカ又ハ職務規範第三十一條ニ依リ既ニ報告シタルモノナルトキニ於テハ速ニ相當官署へ送致シタル旨ヲ所轄ノ檢事ニ報告スルコトヲ要ス規範第百十六條

様式第一號

告訴(告發)調書

住居 氏名 職業 年齢

- 右ノ者昭和 年 月 日午 時當署ニ出頭シ口頭ヲ以テ告
訴(告發)ヲ爲ス旨申立ツルニ因リ取調ヲ爲スコト左ノ如シ
一 問 被疑者ノ住居、職業、氏名、年齢
答 (不明ナルトキハ參考ト爲ルヘキ事項ヲ供述セシムヘシ)
二 問 被疑者ト親族後見人雇人同居等ノ關係ナキヤ
答 何々
三 問 告訴(又ハ告發)セムトスル事實ハ
答 何々
四 問 何々
答 何々
五 問 右告訴(告發)ノ事實ヲ證明スヘキ物件又ハ證人アラハ申立テ
答 何々

此時提出ニ係ル何々ヲ領置シタリ
右錄取シ讀聞ケタルニ相違ナキ旨申立テ署名捺印セリ

告訴(告發)人 氏 名

様式

昭和 年 月 日

何警察署 司法警察官 官 氏 名

様式第二號

自首調書

本籍 住居 氏名 職業 年齢

- 右ノ者昭和 年 月 日午 時當署ニ出頭シ口頭ヲ以テ自
首スル旨申立ツルニ因リ取調ヲ爲スコト左ノ如シ
一 問 自首セムトスル事實ハ
答
注意 此外自首ノ事實ヲ證明スヘキ證人、物件ノ存否、自首
ノ動機等ヲ明ニスヘシ

末尾記載同前

様式第三號

變死者檢視調書

昭和 年 月 日 某裁判所檢事ノ指揮ニ依リ變死者(又
ハ變死ノ疑アル死體)ノ檢視ヲ爲スコト左ノ如シ

發見人ノ住居 氏名年齢及ヒ 其ノ申告要旨	變死者ノ本籍 住居職業氏名 年齢(不詳ノ 場合ハ推定年 齡男女別人相 特微着衣等)	變死ノ年月日 時(不詳ノ場 合ハ推定年月 日時)	變死ノ場所及 其ノ模様	死體ノ狀況	所持品ノ種類	立會醫師ノ氏 名檢案ノ要領	檢視官認定意 見	檢視ノ年月日 時

備考

(但檢視中犯罪アルコトヲ發見シ引續キ自ラ檢證處分ヲ行フ場合ハ此ノ調書ヲ作成スルニ及ハス)

昭和 年 月 日 於 某 所
何警察署
司法警察官 官 氏 名 ㊦

樣式第四號

逮捕調書

昭和 年 月 日午 時 司法警察吏巡查某ハ其ノ逮捕ニ係ル現行犯人某ヲ引致シタルニ因リ之ヲ受取り逮捕ノ事由ヲ聽取スルコト左ノ如シ

一 問 犯人ノ本籍住居職業氏名年齢ハ

二 問 如何ナル犯罪ヲ犯シタノカ

三 問 何故現行犯ト認メタカ

四 問 (現行犯又ハ準現行犯ト認メタル事由詳細)

答 逮捕ノ時及場所ハ

五 問 證人又ハ證據ト爲ル物件カアルカ

答 六 問 何々

右錄取シテ讀開ケタル處相違ナキ旨承認シテ署名捺印シタリ

逮捕者 何警察署

司法警察吏 巡查 氏 名 ㊦

昭和 年 月 日

何警察署
司法警察官 官 氏 名 ㊦

樣式第五號

逮捕手續書

昭和 年 月 日午 時 分某所ニ於テ職務執行中現行犯人ヲ認メタル處逃走スル虞アルニ因リ(罪證ヲ湮滅スル虞アリ、定リタル住居ヲ有セス又ハ住居若ハ氏名分明ナラサルニ因リ等)及逮捕引致候

一 被逮捕者ノ本籍、住居、職業、氏名及年齢

何々

二 犯罪事實及現行犯ト認メタル理由

何々

樣式

三 證人及證據物ノ有無

答 昭和 年 月 日

何警察署

司法警察吏 巡查 氏 名 ㊦

何警察署

司法警察官 官 氏 名 殿

備考 逮捕手續書ヲ以テ逮捕調書ニ代フル場合ニ於テモ其ノ旨ノ記載ハ必シモ之ヲ爲スコトヲ要セス

樣式第六號

逮捕願末書

昭和 年 月 日午 時 分現行犯人ヲ逮捕引致シタル者アルニ因リ其ノ願末ヲ聽取スルコト左ノ如シ

一 問 氏名住居(逮捕者ノ)ハ

二 問 逮捕ノ事由ハ

答 (何故現行犯ト認メテ逮捕シタルカ其ノ事實ヲ聽取スルコト)

三 問 何々

答 何々

右供述ハ事實相違ナシト認ムルヲ以テ被疑者何某及證據物何々ヲ受取り此ノ願末書ヲ作成シタリ

様式

昭和 年 月 日

何警察署

司法警察官

官 氏 名 ①

備考 逮捕者ノ署名捺印ヲ要セス

問答體ト爲サス逮捕者ノ氏名、住居及逮捕ノ事由等ヲ記載シタル報告書様ノ書類ヲ作成スルモ差支ナシ

様式第七號一

被疑者訊問調書

被疑者

氏 名

何々被疑事件ニ付昭和 年 月 日某所ニ於テ司法警察吏巡查某立會ノ上右被疑者ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ
一 問 氏名、年齢、職業、住居、本籍及出生地ハ如何
答 氏名ハ
年齢ハ
職業ハ
住居ハ
本籍ハ
出生地ハ

二 問 (先ツ被疑事件ヲ告ケ陳述スヘキコトアリヤ否ヲ問フコト)

四

答 何々

三 問 何々

答 何々

右録取シテ讀開ケ(又ハ閱覽センメ)タル處相違ナキ旨申立テ左ニ署名捺印シタリ

昭和 年 月 日

陳述者 氏 名 ①

何警察署

司法警察官

官 氏 名 ①

同警察署

司法警察吏

巡查 氏 名 ①

立會人

様式第七號二

第二 回被疑者訊問調書

被疑者

氏 名

何々被疑事件ニ付昭和 年 月 日某所ニ於テ司法警察吏巡查某立會ノ上前回ニ引續キ右被疑者ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ
末尾記載前同斷

様式第八號

住所	被告人 (又ハ被疑者) 氏 名
執行シタル場所	何々被告(又ハ被疑)事件ニ付 何裁判所(又ハ何裁判所檢事局)ニ勾引ス
執行シタル年月日	昭和 年 月 日
執行シタルコト能ハサルトキハ其ノ事由	何警察署
右之通取扱候也	司法警察官 官 氏 名 ① 昭和 年 月 日 何警察署 司法警察吏 巡查 氏 名 ①

引致日時 受託官署 昭和 年 月 日 午 時 分
送致日時 囑託官署 同 年 月 日 午 時 分

様式第九號

押收調書

被疑者何某ニ對スル何々被疑事件ニ付昭和 年 月 日某所某方ニ於テ住居主某(看守者某、同居ノ親族某隣人某又ハ市町村吏員某)立會ノ上押收ヲ爲スコト左ノ如シ

一 押收物ノ品目

番 號	品 目	數 量	被押收者ノ住居氏名	備 考

様式第十號

押收目録

(押收物多數ナルトキハ別紙押收目録ニ記載シ押收調書トノ間ニ契印ヲ爲スヘシ)

一 押收ノ時 午 時 分

(猶豫スヘカラサル場合ニ於テ日出前又ハ日没後此ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ記載スルコト)

昭和 年 月 日 於 某 所

何警察署

司法警察官 官 氏 名 ①

備考 判事ノ命令狀又ハ檢事ノ命令ニ因リ此ノ處分ヲ爲スコトキハ冒頭ニ其ノ旨ノ記載ヲ爲スコト

様式

五

様式第十一號 搜索調書

被疑者何某ニ對スル何々被疑事件ニ付昭和 年 月 日(押
收調書記載事項ニ同シ)立會ノ上搜索ヲ爲スコト左ノ如シ

- 一 搜索ノ場所又ハ物
- 一 搜索ノ結果 押收スヘキ物ヲ發見セス

自午 時 分
至午 時 分

(猶豫スヘカラサル場合ニ於テ日出前又ハ日没後此ノ處分ヲ爲
シタルトキハ其ノ事由ヲ記載スルコト)

昭和 年 月 日 於 某 所
何警察署
司法警察官 官 氏 名 印
備考 判事ノ命令狀又ハ檢事ノ命令ニ因ル場合ニ於ケル冒頭ノ
記載押收調書ニ同シ

様式第十二號

搜索押收調書

被疑者何某ニ對スル何々被疑事件ニ付昭和 年 月 日(記

様式第十三號 檢證調書

載事項同前)立會ノ上搜索及押收ヲ爲スコト左ノ如シ

- 一 搜索ノ場所又ハ物
- 一 搜索ノ結果 左ノ物ヲ押收シタリ

自午 時 分
至午 時 分

(猶豫スヘカラサル場合ニ於テ日出前又ハ日没後此ノ處分ヲ爲シタ
ルトキハ其ノ事由ヲ記載スヘシ)

昭和 年 月 日 於 某 所
何警察署
司法警察官 官 氏 名 印
備考 判事ノ命令狀又ハ檢事ノ命令ニ因ル場合ニ於ケル冒頭ノ
記載ニ付前同斷

様式第十四號

檢證調書

昭和 年 月 日 於 某 所 時 分ニ終ル

十條乃至第八十二條所定ノ司法警察官カ檢證ヲ爲シ得ヘキ法定ノ條
件ヲ明記スヘキコト)急速ヲ要スルヲ以テ檢證ヲ爲スコト左ノ如シ

- 一 檢證ノ場所
- 一 檢證ノ場所

成ルヘク詳細ニ其ノ位置ヲ説明シ尙圖面ヲ添附スヘシ

被害現場ノ模様
家屋ノ構造其ノ他兇行現場ノ模様ヲ詳細ニ記載シ指紋足跡血痕其
ノ他捜査ノ端緒トナルヘキ情況ヲ發見シタルトキハ適宜ノ力保全
處分ヲ爲スヘシ

被害ノ情況
殺傷事件ニ付テハ被害者ノ創傷ノ部位、形狀、豫後ノ經過(又ハ
死因並ニ死後ノ經過時間)、兇器ノ種類等ヲ明確ニシ醫師ヲシテ鑑
定セシメ其ノ旨調書ニ記載スヘシ、其ノ他ノ犯罪ニ付テハ被害ノ
程度、公共危險ノ程度、犯罪ノ手段用器ノ種類其ノ他犯罪ノ證明
又ハ捜査ノ端緒トナルヘキ一切ノ情況ヲ明確ニシ必要アルトキハ
部分圖又ハ寫眞ヲ添附スヘシ、尙鑑定人ヲシテ鑑定ヲ爲サシメタ
ルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

現場ニ於ケル押收物
現場ニ於テ證據物件ヲ發見シタルトキハ發見ノ場所品目ヲ明ニシ
尙別ニ押收調書ヲ作成スヘシ

現場ニ於テ關係人ヲシテ檢證事項ニ付キ説明又ハ指示ヲ爲サシメ
タル場合ニ於テハ其ノ要旨ヲ記載スヘシ、特ニ詳細ナル取調ヲ爲
ス必要アル場合ハ別ニ證人訊問調書ヲ作成スヘシ

證人訊問調書

證人訊問調書
證人 氏 名
右ニ對スル何々被疑事件ニ付證人トシテ訊問候條昭和 年 月 日 時 分ニ終ル
召喚ニ應セサルトキハ過料ニ處セラレ且勾引セララルコト
アルヘシ
昭和 年 月 日
何警察署
司法警察官 官 氏 名 印
住居 被疑者 氏 名
出頭ノ節此召喚狀ヲ差出サルヘシ

様式第十五號

證人訊問調書

證人 氏 名

被疑者何某ニ對スル何々被疑事件ニ付昭和 年 月 日某署ニ於テ司法警察吏巡查某立會ノ上右證人ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ

一 問 氏名、年齢、職業及住居ハ如何

答 氏名ハ

年齢ハ

職業ハ

住居ハ

次テ本職ハ刑事訴訟法第八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ナリヤ否ヲ取調ヘ其ノ關係ナキコトヲ認メタル上(右ノ關係アルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告ケ之ヲ拒マサルトキハ訊問ヲ繼續スルコトヲ得)

二 問 何々

答 何々

末尾ノ記載被疑者訊問調書ニ同シ

様式第十五號二

第 回證人訊問調書

證人

被疑者何某ニ對スル何々被疑事件ニ付昭和 年 月 日某署ニ於テ司法警察吏巡查某立會ノ上前回ニ引續キ右證人ニ對シ訊問スル

様式第十六號

コト左ノ如シ

一 問 何々

答 何々

末尾記載同前

勾 引 狀		住居	証人	氏 名
昭和 年 月 日		當署ニ勾引ス	某ニ對スル何々被疑事件ニ付	
執行シタ	執行シタ	執行シタ	執行シタ	執行シタ
ル場所	ル年月日	ル年月日	ル年月日	ル年月日
執行スル	執行スル	執行スル	執行スル	執行スル
コト能ハ	コト能ハ	コト能ハ	コト能ハ	コト能ハ
サルトキ	サルトキ	サルトキ	サルトキ	サルトキ
ハ其ノ事	ハ其ノ事	ハ其ノ事	ハ其ノ事	ハ其ノ事
由	由	由	由	由
右ノ通取扱候也	昭和 年 月 日	何警察署	司法警察吏 巡查氏名	
何警察署		司法警察官 官氏名		

様式第十七號

過料處分請求書

本籍

何 某

様式第十九號一

鑑定人訊問調書

鑑定人

被疑者何某ニ對スル同被疑事件ニ付昭和 年 月 日某署ニ於テ司法警察吏巡查某立會ノ上右鑑定人ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ

一 問 氏名、年齢、職業及住居ハ如何

答 氏名ハ

年齢ハ

職業ハ

住居ハ

次テ本職ハ刑事訴訟法第二百二十八條第八十六條第一項ニ規定スル關係アルモノナルヤ否ヲ取調ヘ其ノ關係ナキコトヲ認メタル上(右ノ關係アル場合ハ證人訊問調書ニ付述ヘタル所ニ同シ)

二 問 何々

答 何々

末尾記載同前

様式第十九號二

第 回鑑定人訊問調書

右ノ者被疑者何某ニ對スル何々被疑事件ニ付昭和 年 月 日當署ニ於テ證人トシテ訊問シタル處正當ノ事由ナクシテ證言ヲ拒絕シタルニ付刑事訴訟法第二百四條第二百十條ノ規定ニ依ル處分相成度及請求候也

昭和 年 月 日

某署

司法警察官 官 氏 名

何區裁判所判事 殿

様式第十八號

鑑 定 人 召 喚 狀	
住居	被疑者 氏 名
昭和 年 月 日	當署
右ニ對スル何々被疑事件ニ付鑑定人トシテ訊問候條昭和 年 月 日午 時當署ニ出頭可有之候也	
召喚ニ應セサルトキハ過料ニ處セラルルコトアルヘシ	
何警察署	司法警察官 官 氏 名
住居 殿	

出頭ノ節此召喚狀ヲ差出サルヘシ

様式第二十號

鑑定人

氏名

被疑者何某ニ對スル何々被疑事件ニ付昭和 年 月 日 日某署
ニ於テ司法警察吏巡查某立會ノ上前回ニ引續キ右鑑定人ニ對シ訊問ヲ
爲スコト左ノ如シ

一 問 何々

答 何々

末尾記載同前

様式第二十號

聽取書 (被疑者其ノ他ノ關係者聽取ニ共通第二回)
以後ノ分ニ付テハ第何回ト記載ノコト)

本籍

住居

職業 氏名

年齢

年

日本職ニ對シ左ノ通陳述ヲ爲シタリ

右ノ者昭和 年 月

一 何々

一 何々

(又ハ一問何々 答何々ト問答體ニ錄取スルヲ妨ケス)

右錄取シテ讀聞ケ(又ハ閱覽セシメ)タル處相違ナキ旨申立テ左ニ署名
捺印シタリ

陳述者 氏名

名 印

昭和 年 月 日

何警察署(某所)

司法警察官 官

氏名 印

(又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ)

様式第二十一號

領置書

被疑者何某ニ對スル何々被疑事件ニ付其ノ(又ハ所有者、所持者若ハ
保管者何某)任意ニ提出シタル(又ハ被疑者其ノ他ノ遺留シタル)左記
物件ヲ領置ス

昭和 年 月 日

何警察署

司法警察官 官

氏名 印

番號	品目	數量	被領置者ノ住居氏名	備考

一〇

様式第二十二號

實況見分書

被疑者某ニ對スル何々被疑事件ニ付昭和 年 月 日 何郡町
村某方ニ到リ戸主(又ハ其ノ所有者保管者又ハ之ニ代ルヘキ者)某ノ承
諾ヲ得テ實況ノ見分ヲ爲スコト左ノ如シ

一 見分ノ物體

前記場所ニ於ケル某ノ居住家屋(別圖面記載ノ如シ)

二 被疑事件ノ證據ト爲ルヘキ狀況詳細(別ニ圖面ヲ作成シタルトキ
ハ其ノ圖面ト對照シテ記載スルコト)

三 其ノ個所ニ於テ發見シタル何々ハ被疑者ノ遺留シタル物ト史料シ
タルヲ以テ領置シタリ等

四 見分ノ時

右同日

自午前 時

至午後 時

昭和 年 月 日

様式

様式第二十三號

(圖面ヲ作成シタルトキハ見分書トノ間ニ契印ヲ爲スヘシ)

何警察署

司法警察官 官

氏名 印

送達ノ月日	送達ノ時刻	送達ノ場所	送達ノ事由	送達ノ場所	送達ノ時刻	送達ノ事由	送達ノ場所

送達ノ事由

送達ノ場所

送達ノ時刻

送達ノ場所

送達ノ事由

送達ノ場所

送達ノ時刻

送達ノ場所

送達ノ事由

送達ノ場所

送達ノ時刻

送達ノ場所

送達ノ事由

送達ノ場所

送達ノ時刻

様式第二十四號

住所 (被告人、被疑者) 氏名	執行シタル場所

一一

構式

右何々被告(被疑)事件ニ付何々刑務所ニ勾留ス

昭和 年 月 日

何裁判所(検事局)
(判事) 何 某 印
(検事)

執行シタル年月日時

執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由

右ノ通取扱候也

昭和 年 月 日

何警察署
司法警察吏 巡查何某 印

様式第二十五號

時效昭和 年 月 日

速捕状

姓名、刑名、刑期 氏 名

住居

右ノ者頭書ノ通昭和 年 月 日

何裁判所ニ於テ判決ノ言渡ヲ受ケタルニ付刑執行ノ爲逮捕ス

昭和 年 月 日

何警察署
司法警察官 官氏名 印

此ノ逮捕状ハ何裁判所檢事某ノ命令ニ因リ之ヲ發ス

執行シタル場所

執行シタル年月日時

執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由

右ノ通取扱候也

昭和 年 月 日

何警察署
司法警察吏 巡查氏名 印

一一

人相書

丈 色 眼 鼻 耳 音聲 疵所 其ノ他特徴

逃走ノ際 着用衣服 携帶品 立廻ノ場所 備考

顔 頭 眉 口 齒 痘痕 鬚ノ有無

様式第二十六號

搜索押收命令状

住所 被告人 氏 名

右何々被告事件ニ付 〃ノ爲

可有之候也

ニ臨ミ左記ノ搜索押收

様式第二十七號

昭和 年 月 日

何裁判所

司法警察官 裁判長 判事 何 某 印

搜索スヘキ場所又ハ物 押收スヘキ物

事件送付書

送付番

件名

被告(自告) 原告(自告)

昭和 年 月 日

右司法警察職務規程第四十一條ニ依リ送付候也

何警察署
司法警察官 官氏名 印

某裁判所檢事 殿

構式

送付書類目録

送付物目録

備考

様式第二十八號

第 號 送 致 書

罪名

釋放

前科

被疑者ノ住居 職業氏 名 年齢

右被疑事件別紙目録記載ノ書類及差押又ハ領置物件相添ヘ及送致候也

一三

機式

昭和年月

日

何警察署

司法警察官

何裁判所檢事

官

氏

名

印

機式第二十九號

意見書

被疑者氏

名

(一)(二)(三)(四)(五)

犯罪事實
證據
法令ノ適用
犯罪ノ情狀
其ノ他參考ト爲ルヘキ事實
右意見ヲ付シ候也

昭和年月

日

何警察署

司法警察官

何裁判所檢事

官

氏

名

印

昭和二年十月十二日印刷
昭和二年十月十八日發行

刑事訴訟法綱要奥附
定價一圓七十五錢

著者 古田正武

發行者 横尾留治
東京市神田區錦町一丁目十二番地

印刷者 佐藤駒次郎
東京市本郷區眞砂町三十六番地

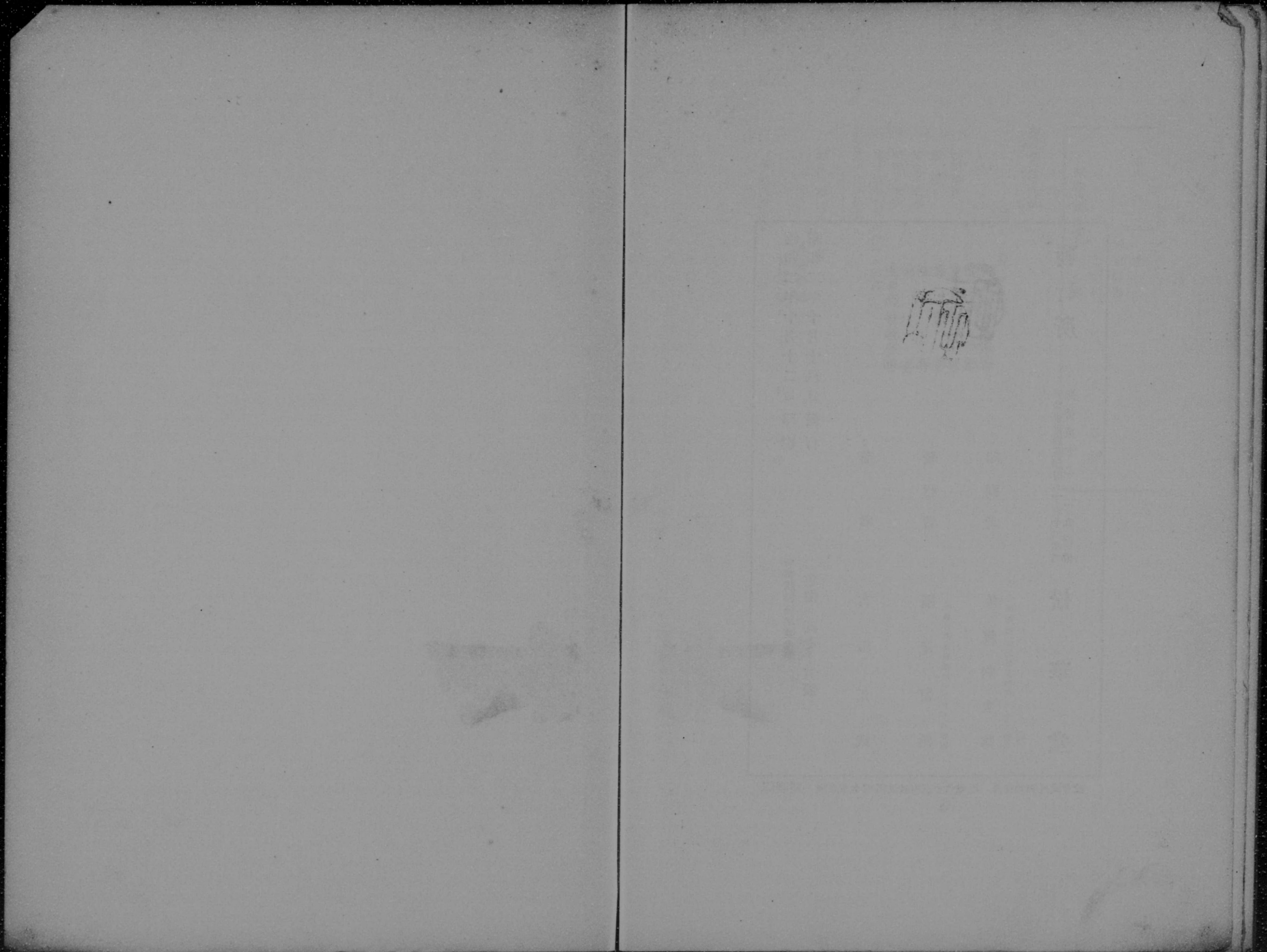


發行所

東京市神田區錦町一丁目十二番地
振替東京二一九四番

松華堂

印刷所 東京市本郷區眞砂町三十六番地 日東印刷株式會社



573
106

